

平成29年度 事業報告書

自 平成29年4月01日
至 平成30年3月31日

事業概況

平成29年度の日本経済は、アベノミクスの推進により、雇用・所得環境の改善が続く中で穏やかに回復しています。海外経済が回復する下で輸出や生産の持ち直しが続くとともに個人消費や民間設備投資が持ち直すなど民需が改善し経済の好循環が実現しつつあります。

日本航空協会は従前より航空宇宙諸般の進歩発展に邁進しており、文化情報事業としましては機関誌『航空と文化』の発行や定例講演会を実施し、航空宇宙の各分野で活躍されている方々のご協力をいただき、身近な航空スポーツ分野の活動や、技術の粋を集めた最新鋭国産機の製作状況、そして宇宙開発の現状に至るまで、広範な話題をみなさまへご紹介しました。また、航空遺産継承の取り組みとしましては、本協会が所有しております三式戦闘機「飛燕」二型が、リニューアルオープンした岐阜かかみがはら航空宇宙博物館において目玉として展示されました。航空遺産の収集、調査、保存も継続して参ります。

航空スポーツの分野では、国際航空連盟 (FAI) の日本における会員 (NAC: National Airport Control) として FAI 総会や関連国際会議への参加、日本選手権や世界選手権出場の公認、日本記録や世界記録の承認や管理、FAI 等が主催する国際競技会への日本選手団の派遣など、これまでの支援活動を継続いたしました。さらに、FAI 青少年航空宇宙絵画国際コンテストおよび航空スポーツ教室ならびにこども模型飛行機教室を開催し、こどもたちの空への憧れや科学する心を育む事業も実施しました。

国際線発着調整業務では、成田国際空港、東京国際空港(羽田)、関西国際空港、新千歳空港、福岡空港の5混雑空港に就航する国際・国内定期便のスケジュール調整に関し、諸制約を踏まえつつIATA(国際航空運送協会)のガイドライン等に則って、中立性、公平性、透明性を確保しつつ、業務を行っております。

上記を含む当協会のさまざまな公益事業等を本年度も予定通り実施し、その遂行に欠かせない収入の財源である航空会館運用事業につきましては、その収入の最大化と費用圧縮により収益の維持に努めました。

各事業の詳細は後頁の通りとなりますので、ご参照願います。

第 1 庶務事項

I . 会 議

1 . 評 議 員 会

第 7 回評議員会を平成 2 9 年 6 月 1 5 日に開催し、平成 2 8 年度の決算、理事の選任（改選期）について承認可決した。

理事、深谷憲一氏の辞任に伴い、長田 太氏を理事として補欠選任する件について、第 8 回評議員会の書面によるみなし決議として、平成 2 9 年 8 月 1 日に承認可決した。

2 . 理 事 会

第 1 6 回理事会を平成 2 9 年 5 月 2 5 日に開催し、平成 2 8 年度事業報告並びに平成 2 8 年度決算（貸借対照表、正味財産増減計算書、並びに同付属明細書）、平成 2 8 年度 公益目的支出計画実施報告書、評議員会の招集、顧問の選任について承認可決した。

会長（代表理事）、副会長、専務理事並びに常務理事の選定について、第 1 7 回理事会の書面によるみなし決議として平成 2 9 年 6 月 1 5 日に承認可決した。

理事、深谷憲一氏の辞任に伴う理事 1 名の補欠選定について評議員会を開催すべく、評議員会の招集について、第 1 8 回理事会の書面によるみなし決議として、平成 2 9 年 7 月 7 日に承認可決した。

第 1 9 回理事会を平成 3 0 年 3 月 2 2 日に開催し、平成 3 0 年度の事業計画及び予算について承認可決した。

3 . 常 任 理 事 会

平成 2 9 年度は常任理事会を 1 1 回開催し、重要な案件について審議し、協会事業の確実な執行と監督を実施した。

第 1 回	平成 29 年 4 月 27 日	各事業活動状況の報告。
第 2 回	平成 29 年 5 月 18 日	平成 2 8 年度事業報告及び決算の件、平成 2 8 年度公益目的支出計画実施報告書の件、評議員会招集の件、顧問の選任。会長（代表理事）、副会長、専務理事並びに常務理事（業務執行理事）の職務執行状況報告、理事の選任（案）、について承認。 各事業活動状況の報告。
第 3 回	平成 29 年 6 月 22 日	理事深谷憲一氏の辞任に伴う理事 1 名の交代について承認。 各事業活動状況の報告。
第 4 回	平成 29 年 7 月 27 日	各事業活動状況の報告。
第 5 回	平成 29 年 9 月 14 日	各事業活動状況の報告。
第 6 回	平成 29 年 10 月 18 日	各事業活動状況の報告。
第 7 回	平成 29 年 11 月 16 日	J O C への加盟について承認。各事業活動状況の報告。

第8回	平成29年12月26日	各事業活動状況の報告。
第9回	平成30年 1月25日	平成30年度資金運用管理方針について承認。各事業活動状況の報告。
第10回	平成30年 2月22日	日本航空協会表彰委員任期満了にともなう選任、日本航空協会航空遺産継承基金専門委員委任について、航空スポーツ統括認定団体に対する平成30年度の航空会館貸会議室の特別対応について承認。各事業活動状況の報告。
第11回	平成30年 3月15日	平成30年度 事業計画及び予算の承認。各事業活動状況の報告。

II. 役員人事

1. 理事

平成29年 6月15日	就任 (21名)	野村 吉三郎、久保 小七郎、萩尾 裕康、 佐藤 信之、松井 康一、岸 周豊、 湯本 到、武田 洋樹、東 昭、 伊藤 義郎、今清水 浩介、岩崎 貞二、 大岩 正和、岡田 清、近藤 晃、 高橋 朋敬、戸矢 博道、中満 悦郎、 濱尾 豊、深谷 憲一、牧 讓
平成29年 6月15日	辞任 (3名)	川内 秀光、吉永 泰之、松浦 光昭
平成29年 6月27日	辞任 (1名)	深谷 憲一
平成29年 8月1日	就任 (1名)	長田 太

2. 評議員

平成29年 5月22日	辞任 (1名)	今清水 浩介
-------------	---------	--------

Ⅲ. 賛助員

平成20年に「公益法人制度改革関連法」が施行され、それに則り日本航空協会は平成24年7月2日に一般財団法人に移行を完了した。これを機に新定款にて新賛助員制度を設け、日本航空協会の事業全般に賛同する法人及び個人の方々へ賛助をお願いしている。

平成29年度実績 法人賛助員 132口（11法人）

全日本空輸株式会社、日本航空株式会社、朝日航洋株式会社、株式会社梓設計、清水建設株式会社、伊藤忠アビエーション株式会社、株式会社ジャムコ、東京国際空港ターミナル株式会社、鹿島建設株式会社、兼松株式会社、株式会社日本空港コンサルタンツ（順不同）

第2 事業実績

I. 文化事業

1. 講演会の開催

(1) 「航空と宇宙」定例講演会の実施

昭和58年の開講以来、幅広い分野から講師を迎えて航空と宇宙に関する定例講演会を開催している。平成29年度の定例講演会は、航空会館に於いて下表のとおり開催した。

回／ 開催日	演 題 ・ 講 師	参加人 数
275回 6月24日	「宇宙輸送の次のゴール」 宇宙科学研究所特任教授、元日本ロケット協会会長 稲谷芳文 氏	107名
276回 9月12日	『空の日・宇宙の日』記念特別講演会 1. 「BK117 D-2型ヘリコプターの紹介 ～開発に係る課題への挑戦と克服について～」 川崎重工(株) 航空宇宙カンパニー 第一ヘリコプタ設計部 基幹職 牛丸 義晶 氏 2. 「HAKUTOの挑戦とその先の展望」 チームHAKUTO/株式会社 i Space 取締役COO 中村 貴裕 氏	160名

277回 10月31日	「戦後の航空機開発と技術の伝承を再検証する ～何を教わり、何を学び、何を残すのか？～」 元YS-11設計部員、元日本航空機開発協会常務理事、 日本航空宇宙学会名誉会員 鳥養 鶴雄 氏	153名
278回 3月12日	「無人航空機がもたらす空の産業革命 ～地方から日本の空を変える～」 ヒロボー株式会社 執行役員副社長 星 尚男 氏	78名

(注) 第276回の『空の日・宇宙の日』記念特別講演会は、例年通り一般社団法人日本航空宇宙学会ならびに公益社団法人日本航空技術協会との共催である。

2. 展示会の実施

航空会館 6階展示コーナーにおける展示を下表の通り行った。

展 示 期 間	展 示 内 容
平成29年4月～	『JSC presents デスクトップモデルの世界 外国のエアライン編』 模型63機

3. 航空図書館

(1) 利用状況 (H29.4～H30.3の実績)

項 目		当該期	月平均	1日平均
開館日数 (日)		252	21	—
入館者数 (人)		2725	227	11
貸出登録証発行数 (件)		30	2	—
内 訳 (件)	(一般)	20	2	—
	(大学・短大等の学生)	9	—	—
	(小・中・高生)	1	—	—
貸出利用者数 (人)		302	25	1
貸出冊数 (冊)		726	61	3
複写利用者数 (人)		473	39	2
資料照会・利用案内件数 (件)		1533	128	6
ビデオ利用本数 (本)		60	5	—

(2) 資料受入状況 (H29.4～H30.3の実績)

	購 入			寄 贈			総計
	国内	国外	計	国内	国外	計	
図 書 (冊)	12	3	15	252	103	355	370
雑 誌 (種類)	7	29	36	63	8	71	107
資 料 (件数)	3	0	3	13	0	13	16
ビデオ・DVDソフト (本)	0	0	0	16	0	0	16

4. 機関誌・図書の刊行

機関誌冊子版「航空と文化」は年2回発行し、広く航空宇宙にテーマを求めて編集している。当協会ウェブサイト内に開設のWEB版「航空と文化」は冊子版から記事の転載を含めて随時更新している。インターネット時代を反映し、多くの読者からアクセスされている。

(1) 冊子版「航空と文化」

No.115 (1,600部)、No.116 (1,600部) を発行した。

「航空と文化」No.115 夏季号 平成29年7月15日発行

「航空と文化」No.116 新春号 平成30年1月15日発行

(2) WEB版「航空と文化」

平成30年3月に更新した。

(3) 航空宇宙年史

更新を行わなかった。

(4) 航空統計要覧

「航空統計要覧2017年版」を平成29年12月20日に発行した。

(1) 及び(2)の概要は、**別表1** (付1頁)の通り。

II. 航空遺産継承基金事務局業務

- ・川崎重工業(株)の全面的な協力のもとに修復された「飛燕」は、平成28年11月19日から平成29年11月13日まで、「かかみがはら航空宇宙科学博物館」の収蔵庫にて分解状態で展示された。その後、ボランティアの協力を得て操舵翼の羽布の張り替えと劣化したゴム部品の取外し、内部調査を行い、平成30年3月24日に同館が「岐阜かかみがはら航空宇宙博物館」としてリニューアルオープンするのにもない、メイン展示のひとつとして展示された。
- ・航空遺産の調査寄贈資料の整理・修復、資料の貸出などの活動を実施した。

1. 賛助員

平成29年度賛助員の状況は以下の通り。

特別賛助員 (累計) 11名、1団体
法人賛助員 34口 (9法人)
個人賛助員 27口 (27名)

2. 特別顧問及び専門委員

(1) 特別顧問

林 良博 独立行政法人国立科学博物館館長
三輪 嘉六 前独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館館長

(2) 専門委員

鈴木 一義 独立行政法人国立科学博物館科学技術史グループグループ長、当協会評議員
北河 大次郎 独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所保存科学研究センター近代文化遺産研究室
藤田 俊夫 航空史家
柳沢 光二 航空史家
横山 晋太郎 前かかみがはら航空宇宙博物館参事、独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所客員研究員

3. 活動報告

(1) 航空資料保存に関する研究

前年に引き続き、独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所と共同で実施している資料保存に関する研究を継続した。

(2) 寄贈資料

以下の資料を初めとする寄贈を受けた。

- 1) 松村治定氏から航空黎明期の航空機や飛行家を写したアート・スミスやキャサリン・スチンソンなどの絵葉書100枚を
- 2) 森田皓一氏から写真アルバムなどの資料を
- 3) 池田陽一氏から航空に関する郵便記念消印などが押された葉書38枚を
- 4) 長島一郎氏からグライダーに関する資料を
- 5) 佐藤眞氏から『航空局中央航空機乗員養成所第1期機関生卒業記念（昭和17年）』写真帖を
- 6) 畑野東一氏から映画フィルム『僚機よさらば』（1938年制作）の一部を
- 7) 宮原幾男氏から航空関係資料（試作練習機の羽布、写真、書類、写真アルバムなど）を
- 8) 下薮大輔氏から航法計算盤などの資料を

(3) 写真資料等の貸出

- 1) 『航空ファン』誌掲載用に、木津川(大阪)飛行場で撮られた写真2枚を横川裕一氏に
- 2) 大正4、および5(1916、1917)年に来日、曲技飛行を披露した米国の飛行家 アート・スミス(下写真)の来日時の写真3枚を『Fly Wheels』誌に
- 3) 『PIKARI』誌掲載用に、奈良原式2号の写真1枚を有限会社大悠社に
- 4) 『世界の傑作機 No. 179 フィーゼラー Fi156 シュトルヒ』掲載用に、シュトルヒの写真1枚を(株)文林堂に
- 5) テレビ番組用に、徳川大尉および徳川大尉が操縦したアンリ・ファルマン複葉機の写真計2枚を、フジテレビジョンに
- 6) (公財)東京都公園協会広報誌『緑と水のひろば』掲載用に、代々木練兵場の空撮写真1枚を(株)シーエスプランニングに
- 7) 『傑作軍艦アーカイブ⑤戦艦「金剛」型』掲載用に戦艦『金剛』の写真1枚を(株)海人社に
- 8) テレビ番組用に山縣豊太郎飛行士の写真1枚を広島テレビに
- 9) 代々木公園開園50周年記念誌用に代々木練兵場の空撮写真1枚を、同誌の編集制作を行っている(株)シーエスプランニングに
- 10) 『航空ファン』誌掲載用に1919年来日のフランス航空教育軍事使節団の写真を柳沢光二氏(基金専門委員)に
- 11) テレビ番組用に代々木練兵場の写真を番組制作会社CRAZY TVに
- 12) 『世界の傑作機 No. 182 ハリケーン』掲載用に同機の写真1枚を(株)文林堂に
- 13) 書籍掲載用としてソッピーズ・クッカーの写真16枚をオーストラリアのCollin Owers氏に

- 1 4) 『航空ファン』誌掲載用として三菱隼型試作戦闘機など写真6枚を横川裕一氏に
 - 1 5) 筑前町立大刀洗平和記念館の展示品説明用として三式艦上戦闘機とF. 5飛行艇の写真を同館に
 - 1 6) 岐阜かかみがはら航空宇宙博物館の展示用として飛燕真や各務原飛行場で初飛行を行った飛行機の写真など69枚を同館に
 - 1 7) 岐阜かかみがはら航空宇宙博物館限定版プラモデル用に飛燕の写真2枚を、同館ミュージアムショップ運営のオークコーポレーションに
 - 1 8) テレビ番組用に芝離宮が写っている空撮写真1枚を番組制作会社conSept LLCに
 - 1 9) 横山晋太郎氏執筆の『航空機を後世に遺す 歴史に刻まれた国産機を展示する博物館づくり』(グランプリ出版(株))掲載用にA-26長距離機など写真15枚を同氏に
 - 2 0) 『世界の傑作機no. 184 二式飛行艇』掲載用に二式飛行艇の写真4枚を文林堂(株)に
 - 2 1) 「飛燕」を各務原市に貸出した。
- (4) その他
- 1) 「飛燕」について、ボランティアの協力を得て操舵翼の羽布の張り替えと劣化したゴム部品の取外し、および内部調査を行った。
 - 2) 故山崎好雄氏、平木國夫氏、郡捷氏の図書・写真などの資料の整理作業を、東京文化財研究所において実施した。
 - 3) 本協会ホームページにデジタル化した宮原旭氏の写真アルバムを掲載した。
 - 4) 戦前の羽田飛行場のターミナルビルおよび DFS オリンピア型グライダー (昭和 15 年に予定されていた東京オリンピックのグライダー競技用機種) の青図、航空黎明期の航空雑誌のデジタル化を専門業者に依頼し実施した。

Ⅲ. 航空スポーツ普及・振興事業

1. 概況

航空スポーツ活動において、大会開催や競技者数は大きな変化はなく、数年来の平均的な実績で推移している。国際航空連盟（FAI）の活動は、総会・委員会については、例年の通り、年次総会（スイス）に当協会より萩尾副会長はじめ3名が出席し、また各国で開催されたFAI種目別5委員会に、航空スポーツ統括団体から代表委員が出席し、選手権も例年の通りに参加した。

アジア地域における航空スポーツの認知度向上、普及と振興、他組織へのアピール等を目的として2015年2月に設立され、FAIが承認するアジア航空スポーツ連盟AFA

(Airsports Federation of Asia)の執行役員会議が2017年11月（中国）と2018年2月（フィリピン）で開催され、当協会より岸航空スポーツ室長はじめ2名が出席した。

会議では各国の航空スポーツ活動の現状を踏まえ、今後航空スポーツ活動が発展しつつあるアジアの国や地域と連携した活動方針等が検討された。また、会議は、会議開催国が主催する航空スポーツイベントに合わせた日程で開催され、今後FAIが航空スポーツ普及プロモーションとして計画しているWorld Air Games Tourを見据えたものでもあった。

愛好者に目を向けると、若い世代の減少や余暇の過ごし方の変化などが相まって各種目とも減少傾向が続いており、年齢構成も高齢化の道を辿っている。引き続き若い世代への興味を喚起する努力と子供達への地道で継続的な情報発信や働きかけを継続することが、航空スポーツを普及・振興し、かつ、愛好者を獲得して、活動の活性化するための重要な課題となっている。

FAI国際競技会では、2017年11月アルゼンチンで開催された模型航空機F3Aラジオコントロール曲技世界選手権で、音田哲男選手が初優勝を果たした。また、2017レッドブルエアレースに参戦した室屋義秀選手が、シーズン4勝を挙げ、アジア初となる年間総合優勝に輝いた。

2018年7月に北海道滝川市で開催を誘致していた模型航空機F5電動飛行機世界選手権の開催が決定し、2017年9月に滝川市等で組織する地元受け入れ協議会、並びに10月に世界選手権組織委員会が発足され、開催に向けて本格的な準備が開始された。

アジアオリンピック評議会（OCA）が主催する2018年アジア競技大会の正式種目として、航空スポーツとして初めてパラグライダー（アキュラシーとクロスカントリー）が採用された。日本から選手と役員を派遣すべく、日本オリンピック委員会（JOC）と協議を行い、当協会がJOCに加盟することを条件に選手等の派遣が行えることとなった。

当協会が把握している日本国内で発生した航空スポーツ重大事故（対象期間：平成29年4月1日から平成30年3月31日）は、9件（死亡者数8名）であった。各統括団体に対して組織的な安全対策構築に取り組むように、また、愛好者一人一人には機材整備・技量向上・地域気象判断は勿論のこと、航空スポーツのモットーである「安全に楽しく・他人に迷惑をかける自己責任」の認識を徹底するように、引き続き各統括団体を通じて働きかけを行った。航空スポーツ団体の活動状況は、**別表2**（付2頁）の通りである。

2. 国際航空連盟（FAI）に関する活動

- (1) 第111回FAI総会が開催され、日本代表として当協会より3名が出席した。

会議名	期間	開催地	出席者
第111回総会	2017年10月26日 ～27日	ローザンヌ (スイス)	萩尾 裕康 岸 周豊 田中 彩香

- (2) 種目別国際エア・スポーツ委員会、技術委員会に関する活動
各委員会の開催期間、開催地及び出席者は下表の通り。

会議名	期間	開催地	出席者
国際模型航空委員会	2017年04月27日 ～04月29日	ローザンヌ (スイス)	日本模型航空連盟 廣瀬 春信
国際気球委員会	2018年03月14日 ～17日	マジョルカ島 (スペイン)	日本気球連盟 市吉 三郎
国際マイクロライト・ パラモーター委員会	2017年11月23日 ～25日	ジュネーブ (スイス)	日本パラモーター協会 五十嵐 亮弥
国際ハング・パラグライ ディング委員会	2018年02月01日 ～04日	サン・ジョアン・ ダ・マデイラ (ポルトガル)	(公社)日本ハング・ パラグライディング連盟 岡 芳樹
国際滑空委員会	2018年03月02日 ～03日	フロイデンシュタ ット (ドイツ)	(公社)日本滑空協会 丸山 毅

- (3) AFA (AFA: Airports Federation of Asia) 執行役員会議

会議名	期間	開催地	出席者
2017年執行役員会議 FAI World Fly-In Expo	2017年11月4～7日	武漢 (中国)	岸 周豊 田中 彩香
2018年執行役員会議 22th Philippine International Hot Air Balloon Fiesta	2018年2月6～9日	クラーク (フィリピン)	岸 周豊 松崎 真也

3. 選手権等

平成29年4月～平成30年3月に実施された日本選手権、日本で開催された国際競技会（カテゴリーI、II）は、熱気球、模型航空機、ハング・パラグライダー、マイクロライトの4種目、計19サブクラスが公認され、成立した。

海外で開催されたFAI国際競技会（世界選手権、大陸選手権）には、熱気球、模型航空機、ハング・パラグライダー種目に日本選手が参加（派遣）した。

各種競技会の実績は、別表3（付3～6頁）の通り。

4. 記録の公認等

平成29年4月～平成30年3月に当協会が認定した日本記録は、模型航空機3件であった。また、FAIより認定された国際記録は、模型航空機2件（世界記録）であった。

別表4（付7頁）を参照。

5. 航空スポーツ教室、こども模型飛行機教室「スカイ・キッズ・プログラム」の開催

子供達に航空スポーツを安全に楽しむ機会を提供することにより、空に対する憧れや科学する心、自然に親しむ心を醸成することを目的に理論と体験を組み合わせた「航空スポーツ教室」と「こども模型飛行機教室」（こども模型飛行機教室全国推進委員会共催）を「スカイ・キッズ・プログラム」として昨年に引き続き実施した。

(1) 航空スポーツ教室

以下3箇所で開催し、熱気球の係留体験搭乗後、模型飛行機教室（ゴム動力飛行機製作、飛行）及びパラグライダーふわり体験を実施した。指導については、日本気球連盟、日本模型航空連盟、（公社）日本ハング・パラグライディング連盟の協力を得た。

東京臨海広域防災公園（8月5日～6日、参加者：1,790名）

京都府京都市立朱雀第四小学校（9月16日、参加者：63名）

広島県安芸高田市立郷野小学校（11月11日、参加者：42名）

(2) こども模型飛行機教室（こども模型飛行機教室全国推進委員会共催）

25箇所（参加者1,048名）で開催した。教室では、オリジナルの座学用DVD（飛行の歴史、航空スポーツ紹介）や揚力実験装置等を用いて座学を行ない、オリジナルゴム動力模型飛行機（スカイ・キッズ号）の製作、飛行調整・ミニ競技を実施した。

6. 青少年航空宇宙絵画国際コンテスト

国際航空連盟（FAI）が主催する青少年を対象とした国際絵画コンテスト「2018FAIヤング・アーティスト・コンテスト」の国内予選を、昨年に引き続き開催した。

今回は「未来の空を飛ぶ（原題：Flying in the future）」をテーマに全国より総数312名から応募があり、平成30年2月22日開催の審査会の結果、下表の通り9名が入賞した。なお、優秀賞9作品は、FAI国際コンテストに日本代表として出品した。

優秀賞

クラス	氏名	住所	題名
6～9歳 (年少)	鈴木 健太	京都府京都市	飛び立て里山で
	ブラン ルカ	大分県大分市	宇宙人と仲良く飛ぶ
	鈴木 琉我	茨城県つくば市	汽車ロケットでレッツゴー！
10～13歳 (年中)	浅田 菜々子	徳島県徳島市	未来飛行
	渡部 朔矢	埼玉県上尾市	Sky ferry boat 空へ渡す船

	関根 望夏	埼玉県さいたま市	未来の町を空中散歩
14～17歳 (年長)	加集 陽	兵庫県明石市	ウミゾラ
	関 愛子	岡山県総社市	夢をのせて
	水越 理紗	東京都大田区	海獣よ、空を飛べ！

7. 主催・後援事業

主催・後援事業等は、**別表5**（付9～10頁）の通り。

IV. 表彰・弔慰援護事業

1. 表彰

(1) 平成29年度表彰

6月22日開催の表彰委員会で、平成29年度の日本航空協会賞各賞の受賞者を決定し、9月20日に国際航空連盟(F A I)賞各賞の伝達式、日本記録証授与式を兼ねた航空関係者表彰式を航空会館において行った。

1) 日本航空協会賞

種 類	受 賞 者 (敬称略)
航空亀齡賞	東 昭、坂本 昭雄、藤原 洋、宮本 裕夫
航空文化賞	東 昭
航空功績賞	赤司 初男、落合 誠一、中町 義幸、松尾 則久、渡辺 康之
航空特別賞	「鳥人間コンテスト」プロジェクトチーム
航空スポーツ賞	檀上 彰宏、石井 満

2) 国際航空連盟(F A I)賞

種 類	受 賞 者 (敬称略)
フランク・エリング・ディプロマ	山田 尚治
FAIエア・スポーツ・メダル	副島 弘壮、馬場 隆行、田口 昇、佐々木 逸馬

協会賞及びF A I賞の詳細は、**別表6**（付12～14頁）の通り。

記録の詳細は、**別表4**（付7頁）の通り。

2. 弔慰援護

航空関係物故者8名について、航空育英会を継続実施し、平成29年度の給付奨学金総額は1,336千円、受給奨学生の人数は10名で、その内訳は、小学生2名、中学生2名、高校生4名、大学生2名であった。

V. 航空交流事業

1. 新年賀詞交歓会

当協会が世話役の代表となって毎年開催する恒例の賀詞交歓会は、平成30年1月4日航空会館において、石井啓一国土交通大臣、あきもと司国土交通副大臣、築和生国土交通大臣政務官、田端浩国土交通審議官、蝦名邦晴航空局長など航空関係者400名が出席して盛大に行われた。

2. 航空神社祭事

平成29年9月20日に航空会館9階において、航空各社代表、祭神である航空殉職者・功労者の遺族の参列を得て、靖国神社神官の出張奉仕により航空神社平安祈願例大祭を実施した。

平成30年1月4日に新年祭を執り行った。

VI. 全国地域航空システム推進協議会 事務局業務

平成29年6月7日の通常総会にて承認された事業計画及び収支予算計画に基づき、次の通り事業活動を行った。関係団体との連携による国への要望活動を行った結果、平成30年度税制改正において航空機の固定資産税に係る課税標準の特例措置の延長（2年間）が決定された。また、国による地方航空支援方策として、昨年度まで3か年で実施された「地方航空路線活性化プログラム」に続き「地方航空路線活性化プラットフォーム事業」が立ち上がり、国主催の「地方航空路線維持活性化に向けた関係者連絡会議」が2回開催された。当会議においては、全国各地域の優良な利用促進等の取組事例に係る企画立案方法の構築やノウハウ等、有効な情報について広く共有されるとともに、国がモデル的取組と評価した2路線において実証調査が実施された。また、乗員の養成・確保対策の検討が進められ、課題解決策として①航空大学校の養成規模の拡大、②私立大学等における高額な学費負担を軽減するための無利子貸与型奨学金事業の開始等の具体策が講じられた。

1. 研究調査

以下の検討会を立ち上げ、地域航空事業者が安定的に運航を維持していくための課題を抽出し、問題点を整理するとともに、解決のための取組について方向性を検討した。

テーマ	委託先
地域航空の新たな枠組づくりに向けた検討会（継続）	加藤一誠氏（慶應義塾大学商学部教授） 安嶋新氏（エア・ビジネスパートナーズ 研究主幹） 松井収氏（ANA 総合研究所 主席研究） 幕亮二氏（MK 総合研究所 代表） 熊本県、長崎県、鹿児島県、兵庫県、 北海道、事務局

2. 研修会等の開催

平成30年1月23日、「研修会」を開催し、以下のテーマと講師による講演を実施した。参加者数は90名。研修内容については、資料・講演録を取り纏め会員に周知した。

テーマ	講師
航空事業の現状と今後について	国土交通省 航空局 航空ネットワーク部 航空事業課 課長補佐（総括） 末満 章悟 氏
混雑空港の発着調整について	（一財）日本航空協会 発着調整事務局 事務局長 武田 洋樹 氏

3. 国への要望等の取り組み

地域航空システム推進のため、以下の項目について国への要望活動を実施した。

（1）6月7日 国土交通省 宛

総会終了後、会長県の長崎県 中村 法道知事により、次の6項目の要望を行った。

- 1) 混雑空港への地域航空の安定的乗り入れの実現について
- 2) 地方が管理する空港の老朽化対策及び整備等に対する助成制度の拡充について
- 3) 離島航空路線維持対策の拡充等について
- 4) 地方航空路線の維持対策について
- 5) 地域航空事業者の経営強化対策について
- 6) 震災、災害を踏まえた空港機能の強化について

(2) 12月13日 国土交通省 宛

会長県の廣畑健次長崎県企画振興部次長を中心に、6月7日に行った要望のうちの重点項目に緊急性のある項目を加えた下記3項目を掲げ、特別要望を行った。

- 1) 地域航空と混雑空港の関わりについて
- 2) 地域航空の安定的な路線の維持について
- 3) 空港機能の強化・老朽対策について

4. 地域振興のための啓発活動

地域振興のための啓発活動として「地域航空フォーラム/17」(第18回)を下記のとおり開催した。また、翌11/18には長崎県協力のもと出津教会堂・ドロ神父記念館、旧出津救助院および遠藤周作記念館の見学を実施した。

日 時：平成29年11月17日(金) 13:30~17:20 (開場 13:00)

場 所：長崎サンプリエール (4Fシェーナ)

参加人数：104名 (参加無料)

テ ー マ：『地方創生と航空』(第3回)

(1) 基調講演

「地域航空の現状と課題」

藤林 健太郎 氏 (国土交通省航空局航空事業課地方航空活性化推進室長)

(2) 論点整理

「航空・空港を地方創生にどう活かす？」

加藤一誠氏 (慶応義塾大学商学部教授)

幕 亮二氏 (㈱MK総合研究所代表)

(3) パネルディスカッション

「持続可能な地域航空と地方創生」

コーディネーター：加藤 一誠氏 (同上)

パネリスト(50音順)：手塚 広一郎氏 (日本大学経済学部教授)

藤林 健太郎氏 (同上)

幕 亮二氏 (同上)

安嶋 新氏 (㈱エア・ビジネス・パートナーズ 研究主幹)

5. その他

国土交通省航空局の地方航空路線活性化プラットフォーム事業の一環として以下の事業を受託し、実施報告書を作成、主催者である国土交通省航空事業課に納品した。

「第1回地方航空路線活性化に向けた関係者連絡会議」(平成29年10月19日開催)

「第2回地方航空路線活性化に向けた関係者連絡会議」(平成30年 3月 6日開催)

Ⅶ. 「空の日」・「空の旬間」実行委員会事務局業務

以下の通年事業を実施した。

(1) 第65回「空の日」航空関係功労者大臣表彰

9月20日に国土交通省共用大会議室にて実施した。

(2) 広報活動

青少年向けに開設している空の日ホームページの普及と充実、Facebook、協賛各社・団体保有の機関誌等紙面への空の日に関する記事掲載（無償）、航空教室、空港イベント等での「空の日」ポスター告知、普及振興グッズの配布、「くにまる」の着ぐるみを各イベント会場等で活用し、広報活動に努めた。

(3) 中学生派遣事業

海外派遣コース（4泊6日）は、成田地区の中学生6名を対象とし、B787の製造を行っているボーイング・エバレット工場等の航空関連施設見学、本邦航空会社の操縦士養成施設見学、現地高学生との交流会等を実施した。

(4) 絵画コンテストの支援

応募チラシの印刷費の一部を補助した。

(5) 地方事業の支援

全国の空港等で開催される空の日イベントを実施する全ての実行委員会に事業費の一部を少額配賦することとし、意欲的なイベントを計画している空港等（6箇所）に追加配賦を行った。

(6) 啓発事業の支援

青少年を対象とする「航空教室等」および航空スポーツ分野の安全に関する講演会、講習会等の取り組みに対して事業費の一部を支援した。

(7) その他

関東近郊の中学生10名を対象とし、ANA訓練センター、JALメンテナンスセンター等の羽田空港周辺航空関連施設見学を8月23日に実施した。

VIII. 国際線発着調整事務局業務

平成20年1月我が国の混雑空港である成田国際空港及び関西国際空港の国際線発着調整業務が日本航空協会に委嘱されたが、平成22年2月新たに東京国際空港（羽田）における国際線・国内線発着調整業務が追加委嘱された。加えて、平成24年8月新千歳空港における国際線・国内線発着調整業務が追加となり、更には平成27年8月福岡空港における国際線・国内線発着調整業務が追加委嘱された。従って、平成29年度においては、成田、関西、羽田、新千歳、福岡空港の5混雑空港における国際線・国内線に関する冬ダイヤ、夏ダイヤの調整作業を中心として、IATA（国際航空運送協会）会議等への貢献に加え、事務局の中立性、公平性、透明性等を更に推進するため下記に示すような業務を実施した。

1. 2017年冬ダイヤ、2018年夏ダイヤの調整

成田国際空港、関西国際空港、東京国際空港（羽田）、新千歳空港及び福岡空港の国際線・国内線スケジュールに関し、IATAのWSG (Worldwide Slot Guidelines) 及び当該空港のローカル・ガイドラインに基づき、下記の調整を日本乗り入れ航空会社（約100社）と実施した。

(1) 2017年冬ダイヤ（10.29, 2017 - 3.24, 2018）の調整

1) IATA SC (Slot Conference) 事前調整

2017年冬ダイヤの調整に当たり、前年同期の運航実績を各航空会社に送付（4月中旬）、運航実績の相互確認を行い、各航空会社からの希望スケジュールの提出（5月初旬）を受け、希望スケジュールを規制値内に収めるよう調整し、一次回答（6月初旬）を内外の航空会社に対して行った。

2) IATA SC (Slot Conference) 140回会議への参加

SC140回会議がマレーシア・クアラルンプールにて6月13日～15日の間開催され、日本乗り入れ航空会社と個別面談方式により2017年冬ダイヤにおけるスケジュール調整を行った。

(2) 第7回空港発着調整委員会の開催

平成22年度に、レベル3の混雑空港（成田、羽田空港）を対象として、空港当局、管制機関、参入航空会社等で構成される首都圏空港発着調整委員会が設置された。更に、平成27年6月福岡空港がレベル3空港の混雑空港として追加されたことから、委員会の名称・規約の変更を行い「空港発着調整委員会」と名称を変更して再スタートすることとなった。

2018年夏ダイヤに向けて、第7回空港発着調整委員会を9月26日航空会館7階大会議室において開催した。主たる議題は、①2018年夏ダイヤに向けた調整方針、②成田国際空港に関する報告（運用状況、スロットの監視）、③東京国際空港（羽田）に関する報告（ターミナルビルの運用状況、スロットの監視）、④福岡空港に関する報告（運用状況、空港施設拡張計画、スロットの監視）、⑤首都圏空港機能強化に関する報告（成田空港の施設拡張計画、羽田空港の施設拡張計画）、⑥スロットのミスユース等であった。

(3) 2018年夏ダイヤ (3.25 - 10.27, 2018) の調整

1) IATA SC (Slot Conference) 事前調整

2018年夏ダイヤの調整に当たり、前年同期の運航実績を各航空会社に送付（9月中旬）、運航実績の相互確認を行い、各航空会社からの希望スケジュールの提出（10月初旬）を受け、希望スケジュールを規制値内に収めるよう調整し、一次回答（10月下旬）を内外の航空会社に対して行った。

2) IATA SC (Slot Conference) 141回会議への参加

SC141回会議がスペイン・マドリードにて11月7日～10日の間開催され、日本乗り入れ航空会社と個別面談方式により2018年夏ダイヤにおけるスケジュール調整を行った。

2. WWACG、IATAのJSAG、WSRMG会議への貢献

発着調整事務局の国際的組織であるWWACG (Worldwide Airport Coordinators Group) 会議のボードメンバー（7ヶ国）と、IATAのJSAG (Joint Slot Advisory Group : 航空会社のスケジューラー（7航空会社）と空港の発着調整事務局（7ヶ国）との合同会議）会議のメンバーが2年ぶりに改選されることとなった。

国際線発着調整事務局長が、WWACGのボードメンバーとして立候補していたが、SC140会議に並行して開催されたWWACG/27会議における選挙の結果承認された。WWACGのボードメンバーの承認を受けたことで、JSAG会議のメンバーとして自動登録され、引き続き今後2年間活動することとなった。

平成28年9月開催された第39回ICAO総会において、ACI (Airports Council International) から空港関係者を入れたWSGの見直しについての提言があった。これを受け、IATAはWSRMG (WSG Strategic Review Management Group) を設立し、航空会社、空港会社、発着調整事務局からなる管理組織を構築し、抜本的なWSGの見直しを開始した。

これらの会議では、スケジュール調整に関する問題点の抽出、問題の解決に向けた議論、得られた解決案を反映するためIATAのWSGの規則改定の実施等について幅広く議論がなされるが、これら会議に日本及びアジア太平洋地域の代表として参加し各種提言を行った。

(1) WWACG/C32ボード会議、JSAG/54会議、WSRMG/1会議への参加

IATA SC140回会議に先立ち、WWACG/C32ボード会議が6月11日、IATAのJSAG/54会議が6月12日、マレーシア・クアラルンプールにて開催され、問題点解決に向けた議論を行った。加えて、WSGの抜本的改訂を行う目的で、WSG戦略的見直しグループ (WSRMG) が設立され、第1回会議が会議期間中の6月14日開催された。

(2) WSRMG/2会議、WWACG/C33ボード会議、JSAG/55会議への参加

WSRMG/2会議が9月4日、WWACG/C33ボード会議が9月5、6日、IATAのJSAG/55会議が9月7日、スイス国ジュネーブのIATA本部にて開催され、問題点解決に向けた議論を行なった。

(3) WWACG/C34ボード会議、JSAG/56会議、WSRMG/3会議への参加

IATA SC141回会議に先立ち、WWACG/C34ボード会議が11月4日、IATAのJSAG/56会議が11月5日、スペイン・マドリードにて開催され、問題点解決に向けた議論を行った。また、WSRMG/3会議が会議期間中の11月10日開催された。

(4) WSRMG/4会議、WWACG/C35ボード会議、JSAG/57会議への参加

日本からの招請により、IATAの会議を東京にて開催することとなり、以下の会議を航空会館に於いて開催した。WSRMG/4会議が3月5日、WWACG/C35ボード会議が3月6日-7日、IATAのSPWG/52会議が3月6日-7日、IATAのJSAG/57会議が3月8日開催され、問題点解決に向けた議論を行なった。

3. APACA(アジア太平洋発着調整事務局連合)会議の開催

オーストラリア・日本が中心となってアジア太平洋地域における発着調整事務局の連合設立の働きかけを行ない、SC127会議において正式にAsia/Pacific Airport Coordinators Association(APACA)が発足した。このAPACAの目的は、アジア太平洋地域の各コーディネーターが抱える問題点の共有、解決策の模索、IATAガイドラインの啓蒙等であり、発着調整組織の国際的組織であるWWACGの下部機関として活動することである。

(1) APACA/14会議

SC140会議期間中の6月13日、第14回APACA会議を開催した。第14回会議では、WWACGの選挙結果の報告、WSGの戦略的見直しグループ(WSRMG)の設立、WWACG新組織の規約、メルボルン空港の滑走路要求管理(RDMS)等について議論を行った。

(2) APACA/15会議

SC141会議期間中の11月7日、第15回APACA会議を開催した。第15回会議では、WSG Strategic Review Management Group(WSRMG)の概要報告、ヒストリックの決定方法、新組織の規約(案)、マニラ空港の滑走路閉鎖等についての議論を行った。

4. 国際線発着調整事務局「運営協議会」

従来、国際線発着調整事務局を資金面、組織面で支援してきたのは、日本航空(株)(JAL)、全日本空輸(株)(ANA)、日本貨物航空(株)(NCA)、成田国際空港(株)、関西エアポート(株)の5社であったが、事務局の更なる独立性、中立性、公平性を確保するため、全本邦航空会社、全混雑空港からの支援を 수용できるような体制強化を図った。

平成28年12月、本邦航空会社16社、空港会社等8社から成る「国際線発着調整事務局運営協議会」を設立し、資金的支援、人的支援を受けることとした。

(1) 第2回 国際線発着調整事務局運営協議会の開催

第2回 国際線発着調整事務局運営協議会を7月10日に開催した。この会合において、①平成29年度第1四半期予算執行状況報告、②国際線発着調整事務局の人事体制報告、③2017年冬期スケジュールの調整状況報告等を行った。

(2) 第3回 国際線発着調整事務局運営協議会の開催

第3回 国際線発着調整事務局運営協議会を12月21日に開催した。この会合において、①平成29年度第1～第3四半期予算執行状況報告、②平成30年度人事体制(案)、③平成30年度運営資金分担(案)の報告、④2018年夏期スケジュールの調整状況報告等を行った。

5. 国際線発着調整事務局の中立性等の推進

IATAのWSGには、国際線発着調整事務局の中立性、公平性、透明性等の確保に関するガイドラインが定められているが、当事務局として更にこれらを推進するため、又アジア太平洋地域の主要メンバーとして下記に示すような種々の取り組みを行った。

- (1) アジアン・ブリーズ第51号(オランダの国際線発着調整事務局特集)を発刊した。(4月)
- (2) 本邦航空会社及び外国航空会社を対象として、第2回発着業務セミナーを開催した。(4月)
- (3) アジアン・ブリーズ第52号(ブラジル(1)国際空港発着調整事務局特集)を発刊した。(6月)
- (4) 第2回国際線発着調整事務局に関する運営協議会を開催した。(7月)
- (5) アジアン・ブリーズ第53号(ブラジル(2)国際空港発着調整事務局特集)を発刊した。(8月)
- (6) 第7回空港発着調整委員会を開催した。(9月)
- (7) アジアン・ブリーズ第54号(ブラジル(3)国際空港発着調整事務局特集)を発刊した。(10月)
- (8) 第3回国際線発着調整事務局に関する運営協議会を開催し、平成30年度の予算案を可決した。(12月)
- (9) アジアン・ブリーズ第55号(シンガポール国際空港特集)を発刊した。(12月)
- (10) アジアン・ブリーズ第56号(マレーシア国際空港特集)を発刊した。(H30年2月)
- (11) (独法)国際協力機構(JICA)の要請により、インドネシア・ジャカルタに於いて、スロット・セミナーを開催した。(H30年2月)
- (12) 航空保安大学校へ講師を派遣し、これから全国各地に赴任していく航空管制運航情報官を対象として、国際線発着調整業務概要の説明を行った。(H30年2月)
- (13) WWACG会議、IATAのWSRMG、SPWG、JSAG会議を日本に誘致し、航空会館にて開催した。(H30年3月)

6. 日本乗り入れ航空会社数

現在、国際線発着調整事務局において、スケジュール調整を行っている日本乗り入れ航空会社数は、延べ100社であり空港毎に下表のとおりである。

地 域	成田国際空港	東京国際空港 (羽田)	関西国際空港	新千歳空港	福岡空港
日本	9	8	9	10	14
北米 (カナダ、メキシコ含)	9	5	6	1	2
欧州	17	4	7	1	1
アジア・オセアニア、 南太平洋	48	25	52	21	23
その他 (中東、アフリカ等)	6	2	1	0	0
合 計	89	44	75	33	40

Ⅸ. 航空会館運用事業

(1) 航空会館のテナント貸室事業

日頃寄せられるテナントからのご意見に対して、安全・衛生的、快適に利用出来るように日々のきめ細かな管理・運営に努めた。

なお、航空会館テナントスペースおよび月極駐車場25台は満室となった。

(2) 貸会議室事業

都内・近隣の貸会議室が急増し競争が厳しくなる中、サービスレベルを維持し、引き続き顧客へのきめ細やかな対応に努めた。競争入札への参加、閑散期割引キャンペーン実施やお客様のニーズに応えるためWi-Fiを導入するなど行っただが、予算達成できなかった。

営業：日祝営業の推進、Web広告対策（WEB広告、検索順位向上対策）

設備：Wi-fi導入、2F、5F壁紙の張替えを行った。

(3) 立体駐車場の保全工事

月極駐車場のターンテーブルの保全工事を5月5日に実施した。

Ⅹ. 航空クラブ

広く航空に携わる人々を中心に設立された航空クラブは発足から39年目を迎えた。

平成29年度の会員動向はご高齢会員の退会もあったが、特別法人会員増で406名となった。

航空クラブの活動としては、小原凡司氏、平松類氏を講師とした卓話会の開催、(株)ANA ケータリングサービス川崎工場および日本航空(株)非常救難訓練施設の見学会、中国大使館においてワインの夕べを実施した。

また、蝦名邦晴航空局長による新春卓話会を開催した。

同好会の活動としては、囲碁、書道、太極拳、写真の各同好会は、航空会館の会議室を利用して毎月、定例会や大会を開催し、会員相互の親睦と啓発に努めた。

機関誌「航空クラブニュース」は3回(うち1回はWEB版)刊行し、卓話会の内容や各同好会の活動紹介などを掲載し、会員に情報を提供した。

会員数並びに活動実績は、次の通り。

(1) 会員数(平成30年3月31日現在)

	東京	地方	計
個人会員	44	6	50
推薦会員	76	11	87
特別会員	67	2	69
特別法人会員	185	15	200
合計	372	34	406

(2) 航空クラブニュース

発行号	発行月
127	平成29年4月
128	平成29年8月
129	平成30年1月(WEB)

附属明細書

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当する事項はありません。